２０２２年度　公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費　実績報告書

2023 年　4 月　27 日

北九州市立大学長　様

（所属・職名）　　経済学部教授

（氏名）　　牛房　義明

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	北九州市における女性活躍の現状と自己実現のあり方について					
	合計	使用内訳（単位：円）				
交付決定額	600,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	593,106	0	22,930	53,000	502,724	14,452
執行残額	6,894	0	77,070	47,000	-202,724	85,548
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	地域共生教育センター		下田　泰奈		調査、分析等	

研究分野：ジェンダー

キーワード：SDGs5 番、男女共同参画、ジェンダー、アンコンシャス・バイアス

研究成果の概要（和文）

日本における男女共同参画及びジェンダー平等達成において、近年、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）に注目が集まっている。本研究では、アンコンシャス・バイアスの地域性に着目し、日本全国と地方（特に九州）においてアンコンシャス・バイアスや固定的な性別役割意識に違いがあるかオンラインアンケートを通して比較分析した。その結果、日本全国よりも、九州地方の方がアンコンシャス・バイアスがより強い結果が示され、男性女性共に、地方においてより強い性別役割意識が存在することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本において男女共同参画やジェンダー平等が進まず、先進国を含む他国の遅れをとっていることは、ジェンダー・ギャップ指数の順位等にも示されている。ジェンダー平等や女性の活躍推進を阻む要因には多くの理由が考えられるが、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）もその理由の一つと考えられている。アンコンシャス・バイアスに関する研究の中でも、全国と地方を比較した研究事例はまだ少なく、本研究の成果は今後、地方における女性の活躍推進や男女共同参画の発展を検討する上で、その基礎的材料になり得ると考える。

1. 研究の背景

日本において男女共同参画やジェンダー平等が進まない現状があり、その背景にはさまざまな要因が考えられている。要因の一つに、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）や固定的性別役割意識の存在が挙げられており、特に男女共同参画の実現や女性の活躍推進が難しいとされている地方においてどういった現状があるか調査した。

2. 研究の目的

日本の中でも、特に地方においてアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）や性別役割意識が強い傾向にあるのではないかと考え、全国調査と九州圏内調査の比較分析を行うこととした。

3. 研究の方法

内閣府男女共同参画局が令和３年度に実施した「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」を参考に、同様の調査を九州圏内限定でオンラインアンケートを通して実施した。対象は、九州圏内の男女 20～60 代の 1,000 名とし、「家事・育児は女性がするべきだ」「組織のリーダーは男性の方が向いている」といった項目に対する回答者の意識を４段階で調査した。

4. 研究成果

全国調査と比較して、九州圏内調査の方が男性、女性共にアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の傾向が高いことが示された。この結果は学術論文にまとめる他、経済系・ジェンダー系の学会で発表する。また、本研究の成果は、行政や企業にも広く共有し、男女共同参画推進の基礎的材料として活用したいと考えている。